

議員研修報告書

1 研修参加年月日

令和4年10月19日（水）から10月20日（木）まで

2 参加場所

長野県長野市 ホクト文化ホール

3 研修事項

第17回全国市議会議長会研究フォーラム in 長野

4 研修参加者（2名）

海東一弘、岩澤 信

5 行程

（19日）

取手駅 — 上野駅 ————— 長野駅 — 研 修 — 宿泊先
8:12 発 9:38 発 はくたか 557 11:04 着 11:30-17:00 17:30 着

（20日）

宿泊先 — 研 修 — 長野駅—————上野駅 — 取手駅
8:45-12:30 14:28 発 あさま 620 16:06 着 17:13 着

6 研修報告

令和4年10月19日・20日に開催された、第17回全国市議会議長会研究フォーラムでの研修報告を行います。大会テーマは「デジタルが開く 地方議会の未来」、場所は長野県ホクト文化ホールです。

初日10月19日、第1部の基調講演として富山和彦氏の「コロナ後の地域経済」を拝聴しました。経済危機の歴史、コロナ禍ショック、平成30年間で進んだ破壊的イノベーションの波がコロナでさらに拡大・加速し、AI新時代（第4次産業革命）の到来、新しいESG資本主義の実現課題、新フェーズの主戦場の変化、「分ける化」「見える化」からCX・DX[^]再建によるIX、DX活用など新たな取り組みによる生産性向上、CX→DX→IXによってローカル産業、公営企業体の生産性革命実現の可能性について等、ローカル経済圏でなぜ当たり前のことができないのか問題・課題を詳しく学ばせていただきました。

第2部としてテーマは「地方議会のデジタル化の現状・課題と将来の可能性」パネルディスカッションのコーディネーターは人羅格氏、パネリストは岩崎尚子氏、牧原出氏、湯浅壘道氏、寺沢さゆり氏となります。コーディネーターの人羅氏からは「市議会のデジタル化の取組状況」を伺いました。委員会等のオンライン開催、タブレット端末の普及状況、会議録のICT化の状況で、取手市議会ではオンライン委員会開催は定着していますが、統計では全体の17.4%と低い印象を受けました。パネリストの岩崎氏から「地方議会のデジタル化の現状・課題と将来の可能性」、牧原氏から「地方議会のデジタル化：審議のオンライン化とデジタル化への対応」について、湯浅氏から

「議会のデジタル化」、寺沢氏からは「長野議会の状況～デジタル化への取り組み～」をテーマとして各々の意見交換と合わせて拝聴しました。全体として、議会のデジタル化・オンライン化については取手市議会の取り組みが先進的な状況であることを再確認いたしました。

2日目、10月20日は第3部、テーマ「地方議会のデジタル化の取組報告」として課題討議が行われました。コーディネーターは谷口尚子氏、事例報告者として金澤克仁氏（取手市議会議長）板津博之氏（可児市議会議長）林晴信氏（西脇市議会議長）が登壇されました。金澤取手市議会議長から「ICT活用いつでも・どこでも議会の権能を維持向上」板津可児市議会議長からは「可児市議会の取り組みについて」林西脇市議会議長から「議会DXへの取組」について取組報告を伺ったあと、谷口氏から課題についての討議を拝聴しました。先進的にデジタル化に取り組んでいる3市議会では「まずはやってみる」という能動的な議会であるという共通点を知ることができました。また、地方議会のデジタル化については一步を踏み出すことができない状況が多数存在している事を知りました。金澤議長の事例報告を通して、改めて取手市議会が取り組んでいるデジタル化は、地方議会のトップランナーとしての気概を感じました。今後の議員活動の糧になる貴重な2日間の研修となりました。

上記のとおり報告します。

取手市議会議長 金澤 克仁 殿

令和4年11月30日

取手市議会議員 岩澤 信